

(4) 関係機関等の取組

① 農業シンポジウム

県内の農業者が一堂に会し、未来の食や農業について考えるシンポジウムを開催した。

最後には、持続可能な農業に向けて農業者が自ら取り組む内容を示す「行動宣言」が採択された。

ア 実施主体

宮崎県

イ 日時

令和5年2月16日(木) 午後1時00分～午後3時00分

ウ 場所

J A・A Z M 大ホール

エ 内容

(ア) 主催者あいさつ 宮崎県副知事 永山 寛理

(イ) 基調講演 農林水産省輸出・国際局 審議官 谷村 栄二

(ウ) 持続可能な農業に向けた活動報告及び事例発表

a 宮崎県農政水産部 次長 菓子野 利浩

b 宮崎県農協青年組織協議会 副委員長 坂本 裕之

(エ) パネルディスカッション

a コーディネーター

宮崎県農政水産部 次長 菓子野 利浩

b パネリスト

農林水産省輸出・国際局 審議官 谷村 栄二

宮崎県農協青年組織協議会 副委員長 坂本 裕之

一般社団法人宮崎県農業法人経営者協会 会長 香川 憲一

(オ) 行動宣言採択

宮崎県農協青年組織協議会 委員長 長渡 孝太

一般社団法人宮崎県農業法人経営者協会 会長 香川 憲一

(カ) 閉会あいさつ

宮崎県農業協同組合中央会 代表理事会長 福良 公一

オ 参加者

県内の農業者、農業関係団体の職員等 230名

カ 農業者による行動宣言(原文)

「食」は、私たちが生きていく上で、何物にも代えられないものであり、それを支える「農業」は、私たちの生活に直結する生命産業です。

一方、農業を取り巻く状況は、生産資材価格の高騰や、高齢化による農村の衰退など、その持続性が危ぶまれています。

私たちは、我が国の生命産業である農業を未来につないでいくため、農業者として一致団結し、持続可能なみやざき農業の実現に向けて行動することを、ここに宣言します。

- 我が国における食料生産の担い手であることを自覚し、これからも安全・安心な「食」を消費者に届けるとともに、将来の担い手の育成に取り組みます。
- 本県の恵まれた自然環境を活かし、地域の資源を最大限に利用しながら、持続可能な農業を実現し、次の世代に継承します。
- 美しい農村風景を守りながら、命の源である「食」を未来のこどもたちにつないでいくため、農業・農村が持つ様々な恵みや、その魅力を発信し、農業への理解醸成に努めます。



「行動宣言」の採択



パネルディスカッションの様子

② クリーンアップイベント

会合の機運醸成を図るとともに、県民による歓迎の意を示すため、関係機関と連携し、花の植栽や清掃活動を実施した。

ア イベント名

まちなかフラワーパーク2023春の植栽

イ 実施主体

みやざきフラワーロード・ネットワーク(道守みやざき会議)

ウ 日時

令和5年4月15日(土) 午前9時00分～午前11時00分

エ 場所

宮崎市橘通周辺(集合場所：みやざきアートセンター1階 太陽の広場)

オ 内容

(ア) 開会式

- ・主催者あいさつ
- ・来賓あいさつ

宮崎市 帖佐伸一副市長 ほか

(イ) クリーンアップ活動

- ・歩道に設置されている花壇等への植栽活動
- ・清掃活動

カ 参加者数

市民ボランティア・G7宮崎農業大臣会合サポーターなど 約280名



開会式



植栽活動を行うサポーター

③ みやざき女子の市場まると体験ツアー

ア 実施主体

宮崎市

イ 実施日

令和5年2月18日(土)

ウ 場所

宮崎市中央卸売市場

エ 内容

市場でのせりの見学や、魚捌き体験、フラワーアレンジメントの製作などの市場体験ツアーを実施

オ PR概要

(ア) イベント名に「G7宮崎農業大臣会合記念イベント」の冠を付けて実施

(イ) イベント内で会合開催についての出前講座を実施。ポスターやのぼりを掲出。

(ウ) 参加者は、SNS (Instagram・Twitter) で「#G7みやざき」のハッシュタグを付けて記事を投稿

(エ) 同時開催中のイベントでG7宮崎農業大臣会合記念の餃子鍋を販売



④ 園芸の祭典2023

ア 実施主体

宮崎市

イ 実施日

令和5年3月4日(土)～5日(日)

ウ 場所

宮崎ブーゲンビリア空港 オアシス広場

エ 内容

宮崎市内で生産される野菜・果樹・花きなどの販売会などを実施

オ PR概要

会場内にG7会合をPRするポスターやのぼり、カウントダウンボードを設置し、パンフレット、ノベルティグッズを配布



⑤ 世界農業遺産・日本農業遺産タイアップイベント

ア 実施主体

宮崎県、世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域活性化協議会

イ 実施期間

令和5年3月4日(土)～5日(日)

ウ 場所

宮交シティ1階 アポロの泉

エ 内容

世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域と日本農業遺産田野・清武地域、日南地域の特産品直売、ステージイベント等を実施

オ PR概要

イベント名に「G7宮崎農業大臣会合記念」の冠を付けて実施したほか、会場内にG7会合をPRするポスターやのぼりを設置し、パンフレット、ノベルティグッズを配布。



PRブース

⑥ 春のフローラル祭

ア 実施主体

フローランテ宮崎

イ 実施期間

令和5年3月18日(土)～令和5年5月14日(日)

ウ 場所

フローランテ宮崎

エ 内容

コチョウランや、ラナンキュラス、チューリップなど次々に咲き変わる花々が園内を美しく彩った。期間中は花と緑に関するイベントを多数実施。

オ PR概要

G7各国の国の花々を用いて山や川を表現した和の庭園をイメージした特設花壇「G7 Flower Garden」を設置



⑦ 駅前広場の装花

ア 実施主体

宮崎市園芸振興協議会

イ 販売期間

令和5年4月5日(水)～24日(日)

ウ 場所

アミュプラザみやざき アミュひろば(宮崎駅前)

エ 内容

カウントダウンボードの周辺に、ルピナス、ナデシコ、アリッサム、ビオラ、白帯菊など、色鮮やかな花壇を設置



⑧ その他の取組

	実施主体	事業名	事業概要	開催日・期間	開催場所	会合に関連する取組内容
1	県農業流通ブランド課	G7宮崎農業大臣会合開催記念商品発売(南九州ファミリーマート)	宮崎県産食材を使用した7アイテムを「G7宮崎農業大臣会合開催記念商品」として期間限定で発売。	R5/4/18～R5/5/1	宮崎県及び鹿児島県のファミリーマート389店舗	商品パッケージにロゴマークを掲載。宮崎市内の店舗では店頭へのぼり旗を設置
2	県山村・木材振興課 みやざきスギ活用推進室	みやざきWOOD・LOVE推進事業	県産材の利用を推進するため、木づかい活動や木育活動を実施	R5/4/21～4/23	会合会場	東京2020オリパラ大会施設で使用した県産材で製作したバックボードに会合ロゴマークを掲示して設置
3	県秘書広報課 広報戦略室	経済紙寄稿	以下の経済紙に対して寄稿 ・財界九州1月号 ・あすの九州・山口1月号 ・九州マーケティングアイズ冬号	R4/12月下旬～R5/1月	—	会合に向けた県の取り組みなどを紹介
4	県秘書広報課 広報戦略室	宮崎県ホームページ	宮崎県ホームページの運営	R5/3/24～	—	トップページの「メインビジュアル」及び「みやざき旬トピックス」に会合広報デザインを掲載
5	県秘書広報課 広報戦略室	県政テレビ番組	県政テレビ番組の放送	① R4/12/11 ② R5/4/15	—	① UMK「みやざきゲンキTV」のコーナー「知っとこみやざき」にて、「4月開催！G7宮崎農業大臣会合」を放送 ② MRT「おしえて！みやざき」にて、「G7農業大臣会合に向けて～宮崎のおもてなし～」を放送
6	県秘書広報課 広報戦略室	県政ラジオ番組	県政ラジオ番組の放送	R5.2.2	—	MRTラジオ「おはよう県庁です」にて、「G7宮崎農業大臣会合について」を放送
7	県国際・経済交流課	多文化共生地域づくり推進事業(うち「多文化共生の地域づくりのための普及・啓発事業」)	①国際プラザニュース発行 ② Facebook を活用した広報	① R5/2/28、4/1 ② R5/2/14～3/29	—	① 2023年3月号(vol.204)及び4月号(vol.205)において、下記7②、14、15のイベント紹介記事を掲載 ② G7各国出身者へのインタビュー記事や、上記1の紹介記事の掲載
8	宮崎市小中学校用務員部会	歓迎装花	シーガイア連絡通路の装花(宮崎市内小学校の子ども達が寄せ植えした花でお迎え)	R4/12～R5/4/24	協力校、シーガイア連絡通路	1,400鉢・400プランターの設置 協力校…恒久小、木花小、青島小、住吉小、清武小学校用務員が寄せ植え指導
9	県立図書館	—	施設内での掲出等	R5/4/4～R5/5/8	県立図書館 閲覧室内特設展示コーナー	閲覧室内入り口に設けた特設展示コーナーにて、参加国の国旗を飾り、各国の文化を紹介する本を展示
10	県総合博物館	—	施設内での掲出等	R5/2/28～4/23	県総合博物館1階エントランスホール周辺	会合のパンフレットの配置とポスターの掲示
11	西都原考古博物館	—	施設内での掲出等	R5/2/28～4/23	西都原考古博物館総合受付周辺	会合のパンフレットを館の総合受付周辺に設置
12	J A 宮崎中央会	—	宮崎県農民連盟が発行する「農政みやざき」に記事掲載	R5/2月号～5月号	—	会合関連記事の掲載
13	J A 宮崎中央会	—	宮崎日日新聞への広告掲載	R5/3/15、21、30	—	県民へ「食と農」への関心を高め、生産資材価格高騰の現状、国産品の考え方、食料安全保障の重要性を周知
14	(公財)宮崎県国際交流協会	G7農業大臣会合関連講座「おしゃべり会」	G7の国々出身の方々へのインタビューやおしゃべり会の開催	R5/2/25～3/25	カリーノ地下1階	チラシにロゴマークを掲出
15	(公財)宮崎県国際交流協会	—	・宮崎県国際プラザ図書コーナーにて、G7の国々に関するおすすめの本を配架したほか、文化などに関するクイズを展示 ・G7参加国の世界遺産の映像を、みやざき外国人サポートセンター内モニターにて日替わりで放映 ・G7出身国の方へのインタビュー記事を協会フェイスブックに掲載	R5/2月～R5/4月	カリーノ地下1階	コーナーの案内板にロゴを使用、のぼりを掲出

(5) 宮崎視察・説明会の実施

① 海外向け魅力発信

在京海外メディアを招請し、本県の農業及び会合会場や近隣の観光地等を案内した。海外メディアによる取材・記事掲載を通じた本県や会合のPRを行った。また、英字新聞「The Japan Times」に、本県を紹介する記事を掲載した。

①在京海外メディアプレスツアー

ア 実施主体

協議会

イ 1回目

(ア) 実施日

令和5年1月24日(火)～25日(水)

(イ) テーマ(取材内容)・行程

日本の「農」と「食」を守る～農業県・宮崎からの挑戦～

【1日目】

- ・大根やぐら(宮崎市)「干したくあん」が可能にする持続可能な地域経済
- ・道本食品(宮崎市)天日干しした宮崎県産の大根を原料に伝統的な製法でたくあん作りを行う、日本で唯一の干したくあん専門メーカー
- ・本部農場(新富町)持続可能な酪農に向けたテクノロジーの活用
- ・世界農業遺産ブリーフィング・高千穂神楽(高千穂町)
山間地の伝統神事を受け継ぎ、舞い踊る人びと

【2日目】

- ・栃又棚田(高千穂町)地域の財産である棚田を守る、コミュニティの「絆」
- ・杉本商店(高千穂町)海外販路開拓で次世代に繋ぐ中山間地域のしいたけ生産
- ・宮崎茶房(五ヶ瀬町)稀少な「釜炒り茶」の産地に、全国から若者が集う
- ・五ヶ瀬中等教育学校(五ヶ瀬町)中山間地域の強みを活かした地域密着型の探究学習

(ウ) 参加者

9名



日本農業遺産・大根やぐらを取材(宮崎市)



中山間地域のしいたけ生産を取材(高千穂町)

ウ 2回目

(ア) 実施日

令和5年4月6日(木)～7日(金)

(イ) テーマ(取材内容)・行程

若き農家がけん引する宮崎の農業 ～未来につながる持続可能な農業への挑戦～
新しい風を吹き込む 宮崎の観光名所「青島」 活気再び

【1日目】

- ・綾・早川農苑(綾町)「農業で教育を」 食やいのちの大切さを伝えたい 人と自然が共生できる社会へ
- ・香月ワインズ(綾町) 共感できる仲間と、安心安全なワイン造り ワクワクを伝えたい
- ・横山果樹園(宮崎市) 食糧危機を救う！ アボカドを宮崎の新たな特産品に
- ・株式会社落合酒造場(宮崎市) 焼酎の未来を切り拓け ジンジャー焼酎で海外市場に販路を見出す
- ・イシハラフーズ株式会社(都城市) 「雇用は最大の福祉」、DX で新しい農業の姿を切り拓く 企業農業集団
- ・株式会社ひなたいちご園(宮崎市) いちごで幸せを届けたい 次なる目標はベトナムでのいちご栽培
- ・青島神社(宮崎市) 青島再生へ尽力 20代目宮司の挑戦
- ・AOSHIMA BEACH VILLAGE(宮崎市) 青島の新たなスポット 30年間の空白地の再開発が始動
- ・宮崎県知事インタビュー 「G7宮崎農業大臣会合」開催地の首長として会合に向けた抱負や、県の基幹産業である農業の成長産業化、インバウンド再開に向けた県の観光促進への取り組み

(ウ) 参加者

6名



アボカドの生産現場を取材(宮崎市)



河野知事が宮崎の魅力をブリーフィング

② ジャパンタイムズ

ア 実施主体

協議会

イ 掲載日

令和5年3月22日(水)

ウ 掲載内容

会合を契機に、海外に向けて本県を紹介し、今後のMICE誘致に繋がるよう受入れ環境等のPRを行った。

- ① 宮崎県の紹介
- ② MICE受入れ環境について紹介
- ③ G7宮崎農業大臣会合について

© The Japan Times | Wednesday, March 22, 2023

Miyazaki special

(Sponsored content)

A subtropical haven for conventions

Selecting the perfect location for a major convention or training camp requires a delicate balance. The need to provide high-quality infrastructure and ensure the safety and comfort of participants must be supported by interesting cultural sights and activities. And having good weather certainly helps. You can find all of this and more in sunny Miyazaki Prefecture, located on the southeastern side of Kyushu. Blessed with a subtropical climate, Miyazaki has both stunning beaches and dramatic mountains overlooking the Pacific Ocean. Although under two hours by plane from Tokyo, the warring palm trees, relaxed atmosphere and warm breezes makes guests feel like they have arrived at an island resort. The Phoenix Segasia Resort, a short 20-minute drive from the prefecture's main hub, Miyazaki Station, provides all the services needed for a successful conference, with the bonus of inspiring, uninterrupted views of the Pacific Ocean. Adjacent to the Sheraton Grande Ocean Resort, the newly renovated Segasia Convention Center can cater to the needs of professional gatherings of all sizes, from company brainstorming sessions of under 100 people to international conferences with over 2,000 attendees. Segasia hosted the Foreign Ministers' Meeting for the 2009 Kyushu-Okinawa Summit, and with the reopening of Japan's borders from the COVID-19 pandemic is looking forward to welcoming guests from around the world. In their downtime, guests can take advantage of two world-class golfing opportunities directly onsite: the Phoenix Country Club (one of Japan's top three courses) along with the more casual Tom Watson course designed by the PGA star himself. Horseback riding, tennis, surfing, diving and peaceful walking trails through the black pine forests are also popular options to stay active and enjoy the warm days. Miyazaki is well-known in Japan for having excellent weather conditions, consistently ranking among the top three for yearly hours of sunshine and number of

clear days. Teams from a variety of sports train in Miyazaki Prefecture, as the conditions are ideal for training and sports events. To support the sporting community's needs, five tennis stadiums will be the Ariano Vital Training Center opening just next to Segasia in April. The 6.5-hectare site includes a grass soccer field, a rugby pitch and a large multipurpose athletic field with a 400-meter track, along with a clubhouse and top-of-the-line indoor training facilities. Besides the Phoenix Segasia Resort, Miyazaki has an additional 29 conference centers across the prefecture, from smaller 100-person events to facilities that can welcome over 1,000. With 48 hotels ready to accommodate guests and experienced staff on hand to help events held in this sunny prefecture will go off without a hitch. Looking for a truly unique reception venue? Why not book Miyazaki Shire for an immersive experience combining local history and culture. But there is much more to Miyazaki than resorts and sports facilities. The grandeur of its landscape has inspired legends of the very creation of Japan itself. During a sojourn in the "land of myths," visitors should absolutely make a stop to the tragic Takachicho area, said to be where the gods Izanagi and Izanami came to Earth and created the islands of Japan. Visit the cave where Amaterasu, the sun goddess, is said to have hidden herself away after a fight with her brother or marveled at the mystical Takachicho Gorge, where her nephew Ninigi descended from the heavens to bring peace on Earth and plant rice. From ancient shinto shrines hidden in the forest to caves leading to the charming former samurai town of Oku, the depth and breadth of Japan's legendary history feel very close in Miyazaki. And don't forget one of the greatest joys of travel: experiencing local foods. Drenched in sunshine and blessed with rich, fertile soil, Miyazaki is the fourth-largest agricultural production area in Japan, and runs a number of innovative initiatives (including a model farming village) to fur-



The Sheraton Grande Ocean Resort hotel. MIYAZAKI PREFECTURE TOURIST ASSOCIATION

ther improve the knowledge and lives of those in agriculture-based communities. The agriculture significance of Miyazaki is clear, as it hosted the G7 Agriculture Ministers' Meeting from April 21 to 23, and is ready to welcome experts from around the world to discuss global issues. But you don't have to be an agriculture specialist to tuck into dinners featuring juicy, umami-rich Miyazaki wagyu beef or prized jidori (locally raised) chicken, rounded out by a few glasses of shochu (a distilled beverage similar to vodka). Those with a sweet tooth will fall in love with the fragrant local mangoes, and during the summer trying a bowl of hayajiri, a savory chilled soup that is paired over a bowl of rice, tofu and cucumbers, is a must. Post-conference, true foodies will be spoiled for choice, with a number of sake breweries,

A natural place to discuss food

SHUNJI KOJIMA
CHAIRMAN, G7 AGRICULTURE
MINISTERS' MEETING IN MIYAZAKI
COOPERATION PROMOTION COUNCIL



It is a great honor for the prefecture of Miyazaki to host the upcoming G7 agriculture ministers' meeting. We sincerely welcome all who visit. Agriculture is a key industry of Miyazaki, which is one of the foremost food-producing bases of Japan. Miyazaki's agricultural output was ranked fourth-highest in 2021. Population growth, climate change and volatile political situations have significantly affected food and farming. At this juncture, I feel it is very meaningful that global food security and sustainable farming will be discussed in Miyazaki. While Miyazaki has attracted many corporate training programs, academic meetings and international conventions,

it is the first time in 25 years for to host a summit-related ministerial meeting. The previous time was the meeting of foreign ministers held as part of the then-Group of Eight Kyushu-Okinawa Summit in 2000. It is my hope that this meeting will make Miyazaki's superior MICE (meetings, incentives, conventions and exhibitions) environment known widely to the world and give it fresh boost to its effort to attract such events. I hope those of you who visit our prefecture will fully enjoy its great features, including its rich, beautiful nature, Miyazaki wagyu — which won first place in last year's beef competition — the high-quality vegetables, meat products and seafood that are the pride of Miyazaki, and its rich cultural traditions, such as the kogumi, an ancient ceremonial dance. I further hope you will eventually become fans of Miyazaki and visit the prefecture again. I also hope this meeting will successfully conclude and become the first step toward an era in which all people of the world are filled with the joy of eating.



The Segasia Convention Center. MIYAZAKI PREFECTURE TOURIST ASSOCIATION



Far left: Seaside Takachicho Gorge is one of Miyazaki's most popular attractions. Left: Miyazaki Prefecture is one of Japan's major sources of fruit, vegetables and other produce. MIYAZAKI PREFECTURE TOURIST ASSOCIATION



2023
MIYAZAKI

Welcome to MIYAZAKI

G7 Agriculture Ministers' Meeting in Miyazaki
G7宮崎農業大臣会合
2023.4.22日 - 23日

② 大使館等職員事前視察ツアー

ア 実施主体

協議会

イ 日時

令和5年3月8日(水) 午後0時30分～9日(木) 午後4時20分

ウ 参加者

G7各国の在京大使館、国際機関連絡事務所等の職員 15名

エ 視察先

宮崎ブーゲンビリア空港、青島、コンベンションセンター、シェラトン、コチョウラン園地、宮崎神宮及び神宮会館、日向夏園地



コンベンションセンター・シェラトンを視察



青島を訪問



コチョウラン園地(愛華園芸、宮崎市)を視察



宮崎神宮・神宮会館を訪問



日向夏園地(とく十九の丘みかん園、宮崎市清武町)を視察

③ 在京大使館向け説明会

ア 実施主体

農林水産省

イ 日時

令和5年3月15日(水) 午後1時30分～午後3時00分

ウ 場所

A P 虎ノ門11階「ルームA」

エ 参加者

G7各国の在京大使館、国際機関連絡事務所等の職員 18名

オ 内容

会合の全体日程、会場、宿泊などの説明



説明会の様子

④ 野村農林水産大臣視察

ア 実施日

令和5年3月17日(金)～18日(土)

イ 視察先

コンベンションセンター、シェラトン、フローランテ宮崎、マンゴー園地、宮崎神宮、宮崎農業高校

ウ 内容

- (ア) 会合会場及び現地視察先の訪問
- (イ) コンベンションセンターにて河野知事、清山市長らと意見交換
- (ウ) フローランテ宮崎にて機運醸成の取組 (G7 Flower Garden) を視察



コンベンションセンター及び宮崎農業高校で説明を受ける野村大臣



フローランテ宮崎を視察された野村大臣と記念撮影

(6) G7宮崎農業大臣会合県民参加プロジェクト応援事業

「食」、「農業」、「G7」をテーマに県民が自ら企画したイベントの開催を支援した。

ア 実施主体

協議会

イ 事業名

「みんなでやっちゃよよ！G7宮崎農業大臣会合県民参加プロジェクト応援事業」

ウ 支援内容(補助率・補助限度額)

(ア) 補助率 補助対象経費の2分の1以内

(イ) 補助限度額 100万円

エ 対象事業

以下のすべてに該当する事業

(ア) 交付決定日から令和5年4月23日までに行われる事業

(イ) 事業名に「G7宮崎農業大臣会合(県民応援)」等を含み、会合の開催周知が図られる事業

(ウ) 「食」、「農業」、「G7」をテーマに行い、県民の参加機会の創出及び国際理解の向上による会合の機運醸成が効果的に図られる事業

オ 募集期間

令和4年12月7日(水)～令和5年1月6日(金)

カ 審査結果及び事業実施結果

(ア) 採択件数

7件

(イ) 事業実施結果

NO	事業名	事業者	実施期間	実施場所
1	G7宮崎農業大臣会合開催記念「ホテル施設を活用した食・農・健康テーマ企画」	宮崎観光ホテル	1/18(水)～4/23(日)	宮崎観光ホテル
2	(G7宮崎農業大臣会合県民応援プロジェクト)ウクライナ危機と若者が描く未来の食料安全保障を軸としたイベント実施によるG7会合への機運の醸成事業	宮崎産業経営大学	①2/25(土) ②3/13(月)～3/16(木)	宮崎産業経営大学ほか
3	G7宮崎農業大臣会合開催記念「世界農業遺産 高千穂郷・椎葉山地域PRイベント」	合同会社ミミスマス	①3/24(金)～3/26(日) ②3/25(土)	①宮崎空港2F土産物屋前 ②宮崎市一番街商店街
4	G7宮崎農業大臣会合記念「桜とみやざきの特産品フェア」事業	宮崎物産協会	3/25(土)～3/26(日)	宮崎市中央公園文化の森
5	「G7 Food Festival」	株式会社AVC放送開発	4/1(土)～4/2(日)	フェニックス・リゾート グリーンガーデン
6	「G7宮崎農業大臣会合開催記念」まちなかフラワーパーク2023春の植栽ボランティア	道守みやざき会議	①4/3(月) ②4/15(土)	宮崎市橘通1丁目交差点～3丁目交差点の東西歩道

NO	事業名	事業者	実施期間	実施場所
7	G7宮崎農業大臣会合開催記念「G7多文化交流フェスタ&宮崎ファーマーズマルシェ」	宮崎市国際交流協会	4/8(土)	TSUTAYA BOOKSTORE 宮交シティ店

事業募集チラシ

「G7 Food Festival」チラシ



「G7多文化交流フェスタ&宮崎ファーマーズマルシェ」



「まちなかフラワーパーク2023春の植栽ボランティア」

(7) サポーターの募集と活動

公募と推薦により選考したボランティアからなるサポーターが、宮崎らしい「おもてなし」と本県のPRを実施した。

① サポーターの選考

① 一般サポーター

ア 募集

(ア) 応募資格(次の要件を全て満たす人)

- ・令和5年4月1日現在、18歳以上の県内在住の人
- ・日常会話レベルの英会話ができる人(外国人にあっては日本語ができる人)
- ・ボランティア活動を行うに当たっての資質を有する人

(イ) 応募条件(次の要件を全て満たすこと)

- ・会合期間において、1日単位で活動できること(全日程に参加できなくても可)
- ・令和5年3月26日(日)、4月15日(土)の事前研修(半日程度)に参加できること

(ウ) 募集期間

令和5年1月25日(水)～2月15日(水)

(エ) 募集方法

- ・募集チラシの作成及び宮崎県(市)国際交流協会等を通じた周知活動
- ・宮崎県ホームページへの掲載

(オ) 応募者数

77人

イ 一次審査(書類審査)

ウ 最終審査(面接審査)

(ア) 面接日 令和5年3月5日(日)

(イ) 面接会場 宮崎市民プラザ4階 学習室

(ウ) 面接方法 日本語と英語による面接

(エ) 面接結果 19名を選考

エ 一般サポーターの構成

	年齢	20代	30代	40代	50代	合計
人数	男性	2人	1人	0人	0人	3人
	女性	2人	5人	4人	5人	16人



② 学生サポーター

県内11の大学・短期大学等で構成する「高等教育コンソーシアム宮崎」と連携し、加盟大学等に在籍する学生及び留学生から、学生サポーター44名を推薦いただいた。

(ア) 推薦基準(次の要件を満たす、県内在住の学生及び留学生)

- ・会合期間において、1日単位で活動できること(全日程に参加できなくても可)
- ・令和5年3月26日(日)、4月15日(土)の事前研修(半日程度)に参加できること
- ・一定の語学力(英語(留学生にあっては日本語も))や、ボランティア活動等を行うに当たつ

ての資質を有する者であること

(イ) 推薦期間

令和5年1月10日(火)～2月10日(金)

② 委嘱式・研修会

① 委嘱式・第1回研修会

ア 実施日

令和5年3月26日(日)

イ 場所

コンベンションセンター2階 オーチャード

ウ 内容

(ア) 委嘱式

- ・委嘱状交付(殿所協議会事務局次長)
- ・協議会事務局あいさつ(殿所協議会事務局次長)
- ・記念撮影

(イ) 研修会

- ・農林水産省職員による講話(講師：農林水産省輸出・国際局 G7宮崎農業大臣会合準備室 国際連絡調整官 齋藤 淳 氏)
- ・会合及びサポーター業務の概要説明(協議会事務局担当)
- ・宮崎の農業の概要説明(協議会事務局担当)
- ・プロトコール研修(講師：GRJapan 株式会社シニア・コンサルタント 浦元 義照 氏)
- ・会場視察
- ・コーヒースタイル
- ・グループワーク(講師：南九州短期大学准教授 海野 るみ 氏)



委嘱状交付



記念撮影



農林水産省による講話

② 第2回研修会

ア 実施日

令和5年4月15日(土)

イ 場所

宮崎県庁防災庁舎7階 防7 2号室

ウ 内容

- ・業務内容説明



第2回研修会

基本事項の確認
業務別マニュアルの説明 など

③ 会合期間中の業務

- ・宮崎空港及び会場における歓送迎・通訳
- ・歓迎レセプション参加者受付補助
- ・歓迎レセプションにおける説明補助・通訳
- ・展示ブースにおける説明補助・通訳
- ・インフォメーションデスクにおける説明・通訳
- ・コーヒードレインにおける説明補助・通訳
- ・キッズプレスにおける通訳

④ G7宮崎農業大臣会合サポーター「感謝の集い」

ア 日時

令和5年5月19日(金) 午後7時00分～午後9時00分

イ 場所

ホテルマリックスラグーン 1階

ウ 目的

サポーターに感謝を伝えて慰労するとともに、サポーター同士の交流を深める契機とする。

エ 次第

- (ア) 開会
- (イ) 感謝状贈呈(日高協議会事務局次長)
- (ウ) 歓談、活動振り返り
- (エ) 閉会

オ 出席者

G7宮崎農業大臣会合サポーターなど 44名



感謝状贈呈

(8) 「高校生の提言」プロジェクトの取組

① 目的

G7 宮崎農業大臣会合において実施する「高校生の提言」を通して、世界の食や農業について学び、グローバルな視点で活動する機会を創出する。

また、各学校の様々な学びを融合させ、持続可能な食や農業のための提言を作成することで、未来の食や農業への関心を高め、イノベティブなアイデアを創出する契機とする。

② 参加者

県立高等学校生徒 20名 (県内 14 高校) ※公募により選定

③ 指導・協力体制

県教育委員会で結成したコーチングスタッフ (高校教諭 4 名、ALT 1 名) が指導。

県内 4 か所の生産者の協力により現地研修を実施。

国連食糧農業機関 (FAO) の協力により G7 加盟国の高校生とのオンライン交流会を開催。

④ 全体スケジュール

期日	時間	内容
12月27日(火)	10:30～16:00	農林水産省谷村審議官による特別講座
1月21日(土)	13:00～16:00	農政水産部講座・JA等との意見交換
1月28日(土)	13:00～16:00	グループワーク①
2月11日(土)	13:00～16:00	生産現場での現地研修(県内4か所)
2月25日(土)	10:00～16:00	グループワーク②
3月4日(土)	13:00～16:00	グループワーク③
3月11日(土)	13:00～16:30	G7加盟国の高校生とのオンライン交流会
3月12日(日)	9:30～15:00	高校生による食農イベント「農フェス」
3月20日(月)	14:00～16:00	記念シンポジウム
4月15日(土)	10:00～16:00	本番前リハーサル

⑤ 主な活動の様子

① キックオフミーティング

日時 令和4年12月27日(火) 午前10時30分～午後4時00分

場所 宮崎県防災庁舎73号会議室

内容 全体オリエンテーション・アイスブレイク、特別講座、グループワーク

講師 農林水産省輸出・国際局 谷村審議官



②生産現場での現地研修

日時 令和5年2月11日(土) 午後1時00分～午後4時00分

ア スマート農業コース

名称 AGRIST株式会社

内容 概要説明、収穫体験(ピーマン)、収穫ロボット・環境制御見学、意見交換

イ 有機農業コース

名称 松井農園

内容：農場見学、収穫体験(ニンジン)、ニンジンジュース試飲、意見交換

ウ 地域資源循環コース

名称 本部農場

内容 概要説明、施設見学(搾乳ロボット、バイオガスプラント)、意見交換

エ 食育・伝統農業コース

名称 AKASAKA farm

内容 概要説明、収穫体験(ニンジン、大根)、大根やぐら体験、意見交換



③G7加盟国の高校生とのオンライン交流会

日時 令和5年3月11日(土) 午後3時00分～午後4時30分

場所 オンライン形式

内容 宮崎の学生による提言(案)の発表、G7加盟国海外学生からの意見や自国の紹介
G7加盟国海外学生と宮崎の学生の交流



④ 高校生による食農イベント「農フェス」

日時 令和5年3月12日(日) 午前9時30分～午後3時00分

場所 AKASAKA Farm

内容 農業体験(ニンジン収穫)、食体験(ニンジン食べ比べ)、絵本の読み聞かせ、調理体験(生+煮る・焼く・揚げる)、はたけで遊ぼう(逃走中・ドッジボール)



(9) 安全の土台づくり

「G7宮崎農業大臣会合」での会合参会者の安全と行事の円滑な開催を確保するため、宮崎県内の危機管理関係機関で構成する危機管理体制を構築し、情報共有を図るとともに、各担当分野の対策検討及び個別計画の策定について各機関で対応した。

① 会議及び訓練

①危機管理担当者会議

ア 実施主体

協議会

イ 日時

令和4年12月15日(木) 午前10時00分～午前11時30分

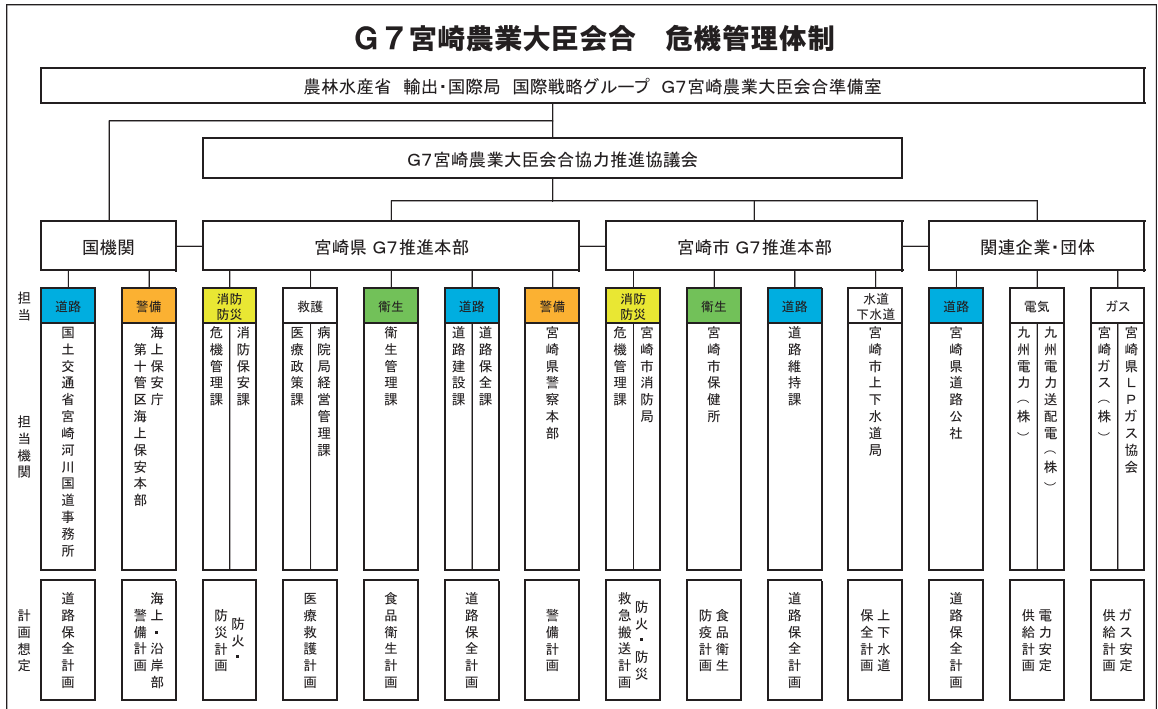
ウ 場所

宮崎県庁(企業局庁舎2階会議室)

エ 内容

- (ア) 全体説明(大臣会合の概要、スケジュール等)
- (イ) 危機管理における各分野の取組について
- (ウ) 国際テロの現状説明(宮崎県警察本部)
- (エ) 分科会の開催

オ 危機管理体制



②宮崎県警察

ア 主な会議

(ア) テロ対策パートナーシップ推進会議 定例会

- a 日 時 令和4年10月24日(月) 午前10時30分～
- b 場 所 シーガイアコンベンションセンター3階「瑞洋」
- c 概 要 「テロを許さない社会の実現」という理念の下、警察と関係機関・団体・民間事

業者等との緊密な連携を図るため「テロ対策宮崎パートナーシップ推進会議」を設立し、官民一体のテロ対策を推進しているところ、G7宮崎農業大臣会合の概要等について情報共有するとともに、テロ対策やサイバー攻撃対策等について協力要請を行い、更なる連携の強化を図った。

- d 参加者 行政機関、公共交通機関、集客施設、ライフライン関係企業等
29団体、約40名



イ 主な訓練

(ア) イオンモール宮崎・警察合同テロ対策訓練

- a 日時 令和4年11月28日(月) 午後2時～
- b 場所 イオンモール宮崎「スペースコート」
- c 概要 G7宮崎農業大臣会合の開催を見据え、大規模集客施設を対象としたテロ事案への対処を目的として、爆破予告事案を想定し、館内の搜索、不審物件の発見、従業員による来客等の避難誘導、通報要領、通報を受理した警察の初動対応等について、連携を確認した。
- d 参加者 イオンモール宮崎、宮崎県警察本部 約50名



(イ) 警察・海保合同パトロール

- a 日時 令和5年2月22日(水) 午後1時50分～
- b 場所 宮崎港第5岸壁からシーガイアコンベンションセンター周辺海域
- c 概要 G7宮崎農業大臣会合に向け、会場場所であるシーガイアコンベンションセンターに近接する海域周辺における両機関による合同パトロールを通じ、相互の連携を強化し、不審船や不審人物の早期発見、テロ等行為の未然防止を図るとともに、関係機関、団体、個人等に対し、警備に対する協力依頼を行った。
- d 参加者 第十管区海上保安本部、宮崎海上保安部、宮崎県警察本部 約30名



(ウ) 官民連携テロ対策合同訓練

- a 日時 令和5年3月23日(木) 午前10時～
- b 場所 宮崎カーフェリー「たかちほ」船内および同ターミナル周辺

- c 概要 G7宮崎農業大臣会合の開催に向け、宮崎カーフェリー「たかちほ」船内において、不審者が現れたとの想定の下、同フェリー乗組員による乗客の避難誘導、警察官・海上保安官による制圧逮捕、警備部機動隊による爆発物処理に至るまでの連携を確認した。
- d 参加者 第十管区海上保安本部、宮崎海上保安部、鹿児島海上保安部、宮崎県警察本部、宮崎カーフェリー 約100名



(エ) サイバー攻撃事案を想定した共同対処訓練

- a 日時 令和5年4月7日(金) 午後1時30分～
- b 場所 シーガイアコンベンションセンター2階会議室
- c 概要 G7宮崎農業大臣会合の開催を控え、サイバー攻撃の発生が懸念される会合会場やインフラ事業者を対象に、警察と関係機関等との緊密な連携・協力関係の構築とサイバー攻撃事案発生時の対処能力の向上を図るため、シナリオカードに基づく図上訓練を行った。
- d 参加者 宮崎県警察本部、フェニックスリゾート株式会社、重要インフラ事業者等 約50名



③第十管区海上保安本部

ア 主な訓練等

(ア) G7宮崎農業大臣会合の開催を控えた宮崎県警察本部との合同パトロール

- a 日時 令和5年2月22日(水) 午後1時50分～
- b 場所 宮崎港から周辺海域
- c 内容 海上での合同パトロールを行うことにより、関係機関相互の連携強化を図り、不審事象の早期発見に資するとともに、報道機関にパトロールを公開することで、テロ等違法行為の未然防止に係る呼びかけを広く発信し、自主警備意識の向上、会合の円滑な進行への理解促進を図った。
- d 参加者 第十管区海上保安本部、宮崎海上保安部、宮崎県警察本部

(イ) 官民連携テロ対策合同訓練

- a 日時 令和5年3月23日(木) 午前10時00分～
- b 場所 宮崎港
- c 内容 官民連携テロ対策訓練を行うことにより、不審事象発生時における相互の連携強化を図るほか、水際におけるテロ対策の対処能力向上を図るため、カーフェリー乗組員による不審者対応・乗客の避難誘導、海上保安官による不審者制圧、

宮崎県警による犯人制圧・爆発物処理訓練を行い、これらを広く対外的に発信することにより、国民や会合関係者の安全安心の確保に加え、会合の円滑な進行の理解促進を図った。行の理解促進を図った。

- d 参加者 第十管区海上保安本部、宮崎海上保安部、鹿児島海上保安部、宮崎県警察本部、宮崎カーフェリー



④宮崎市消防局

ア 主な訓練

(ア) N B C災害対応図上訓練

- a 日時 令和5年2月27日(月) 午前9時30分～
- b 場所 宮崎市消防局南消防署B訓練棟
- c 内容 会合関係施設等でのN B C災害を想定した図上訓練を行い、各関係機関の活動要領や資機材保有状況を確認し、災害対応力の向上及び連携強化を図った。
- d 参加者 陸上自衛隊第8師団第43普通科連隊、宮崎県危機管理局、宮崎県警察本部、宮崎市消防局



② セキュリティ・環境整備

①市民への協力依頼

ア 実施主体

協議会、宮崎県警察、第十管区海上保安本部

イ 内容

会合会場周辺や視察先周辺の交通渋滞緩和及び海上警備に関する協力について、チラシの配布、マスメディアなどで広報を行い、周知を図った。

- (ア) 自治会、地域センター・事務所、近隣小中学校、近隣公共施設、県警などへ、交通渋滞緩和のチラシ配布及び告知・案内看板の設置 (P 84)
- (イ) 新聞へ交通渋滞緩和の広告掲載 (P 82)
- (ウ) テレビで交通渋滞緩和の広告放映 (P 83)
- (エ) 協議会 WEB サイトに交通渋滞緩和のチラシ掲載 (P 84)
- (オ) 漁協関係者、港湾関係者などへ海上警備のチラシ配布

②危機管理

ア 実施主体

宮崎県危機管理局危機管理課、消防保安課

イ 主な内容

会合期間中における危機事象の発生及び発生のおそれがあるときに、速やかに情報の収集及び伝達を行えるよう、危機管理体制強化期間を令和5年4月21日(金)から23日(日)まで設定し、期間中、職員を宮崎県庁防災庁舎に常駐させるなど、危機事象への体制強化を図った。

③消防警備

ア 実施主体

宮崎市消防局

イ 警備期間

令和5年4月20日(木)～24日(月)

ウ 主な内容

(ア) 警備体制の確立

宮崎市消防局内に消防局長を本部長とする「宮崎市消防特別警戒本部」を設置するとともに、会合会場内に「宮崎市消防特別警戒現地本部」を設置し、警備体制を強化した。

(イ) 消防特別警戒対象物等の指定

会合会場、視察会場及び移動順路の危険物施設等を消防特別警戒対象物として指定し、立入検査や訓練指導などの予防対策を強化した。

(ウ) 災害対応への強化

会合会場などにおける火災、救助事案及び救急事案に備え、指揮隊及び消防隊等を編成し、会合会場などに常駐させ、出動体制及び情報連絡体制などの強化を図った。

(エ) 救急体制の充実

救急隊を編成し、会合会場などに常駐させるとともに、関係医療機関等と連携し、情報連絡体制や救急医療の受入れ体制などの強化を図った。

④医療救護

ア 医療機関との連携

(ア) 実施主体

宮崎県福祉保健部医療政策課、宮崎市消防局、協力医療機関

(イ) 主な内容

宮崎市内外の医療機関に対し、救急搬送時の受入れ、受入れ可能状況の情報共有、救急搬送時の連絡体制などについて協力を要請した。

[協力医療機関]

宮崎大学医学部附属病院、県立宮崎病院、宮崎江南病院、古賀総合病院、竹内病院、宮崎善仁会病院、宮崎市郡医師会病院、宮崎生協病院、迫田病院、南部病院、潤和会記念病院、国立病院機構宮崎東病院、宮崎医療センター病院、金丸脳神経外科病院、クリニックうしたに、宮崎市立田野病院、上田脳神経外科

イ 救護班の編成

県立宮崎病院の医師・看護師により、救護班を編成し、会合会場の医務室における救護体制を構築した。

⑤食品・衛生管理

ア 実施主体

宮崎市保健所

イ 主な内容

(ア) 食品管理

会合関連行事で食品を提供する施設に対し、食品への意図的な異物混入防止（食品防御）の指導及び食中毒など食品事故防止の指導並びに調理場への立会いを行った。

(イ) 衛生管理

会合関連行事で食品を提供する施設及び宿泊施設に対し、客室、給水施設などの衛生管理、宿泊者の情報管理について指導を行った。

⑥道路管理

ア 実施主体

国土交通省九州地方整備局宮崎河川国道事務所、
宮崎県県土整備部道路建設課・道路保全課、宮崎市建設部道路維持課

イ 主な内容

(ア) 工事調整

会合期間中の円滑な移動の確保を目的として、代表団などの移動経路について、工事日程の調整を図った。

(イ) 道路管理

会合前のパトロールにより異常箇所の有無を確認するとともに、会合期間中には緊急時連絡体制を構築し、適正な道路管理を行った。

⑦上下水道対策

ア 実施主体

宮崎市上下水道局

イ 実施期間

令和5年3月22日(水)～4月23日(日)

ウ 主な内容

(ア) 緊急時連絡体制の確保

実施期間中において、局内関係部署が待機体制をとり、緊急時連絡体制を確保した。

(イ) 浄配水施設などの監視

会合開催約1ヶ月前と開催日の1週間前に、車両通行上にあるマンホールの確認を行った。

⑧電力供給対策

ア 実施主体

九州電力(株)宮崎支店、九州電力送配電(株)宮崎支社、宮崎配電事業所

イ 実施期間

令和5年4月21日(金)～23日(日)

ウ 主な内容

(ア) 設備保全対策

会合会場及び会合関連行事に関係する電力設備に対し、設備異常の早期発見・改修に向けた巡視点検等を行った。

(イ) 連絡体制の強化

宮崎支社 G7宮崎農業大臣会合対策本部を設置し、組織体制を強化するとともに、会合開催時において関係機関と連携し、情報共有を図った。

(ウ) 電源確保と設備の保安体制強化

会合会場に電力供給を行っている関係変電所に要員を配置し設備巡視等を行い、電源の確保と電力関連施設などの警備強化を図った。また、関連行事に係る施設については、高圧発電機車の設置等を行い、供給支障事故時の初動対応強化を図った。

(エ) 工事調整

会合期間中において、電力安定供給に影響を与える作業の日程調整を行った。

⑨ガス施設保安管理対策

ア 実施主体

宮崎ガス(株)、宮崎県LPガス協会

イ 実施期間

令和5年4月6日(木)～23日(日)

ウ 主な内容

(ア) ガス施設における自主警備体制の強化

自社施設(製造施設、ガスホルダー、事務所含む構内)に対し、巡視点検、施錠確認の徹底及び会合会場の周辺のガス施設の事前確認など保安対策の強化を図った。

(イ) 連絡体制の確立

非常時における社内外の連絡体制を確認し、従業員及び関連会社への徹底を図った。

(ウ) 工事の調整

会合期間中および期間前後は、会合会場周辺での工事を行わないよう、担当部署及び工事会社へ周知徹底を図った。

⑩通信防護・保守対策

ア 実施主体

西日本電信電話(株)宮崎支店、(株)NTTドコモCS九州宮崎支店 ほか

イ 実施期間

令和5年4月20日(木)～24日(月)

ウ 主な内容

(ア) 非常用回線確保対策

衛星回線の確保、対策要員の配置(24H)、保守車両の配置などにより、非常用回線の確保に対する体制を構築した。

(イ) 長時間停電、電力故障及び回線故障対策

電力設備及び通信設備の監視体制強化、対策要員の配置(24H)、保守車両の配置などにより、長時間停電、電力故障及び回線故障に対する対策を講じた。

(ウ) 通信設備妨害対策

重要設備・重要ルートのパトロールを実施するなど、妨害対策を強化した。

(エ) 通信回線構築の調整

会合運営が円滑に行えるよう早期(2月)から回線工事の調整を実施した。

(オ) 情報連絡体制の確立

通信サービスの異常発見時などに対する情報連絡体制を NTT グループ全社で確立した。

(カ) セキュリティ対策実施

各種システムへのサイバー攻撃監視、通信ビルセキュリティ対策、社員証紛失、ユニフォーム盗難等の管理を徹底した。

⑪ 通信体制の確保

ア 実施主体

協議会

イ 内容

会合運営の従事者間の通信手段確保及び情報共有のため、携帯型広域無線機を運用した(全65台)。

⑫ 警備に関する農林水産省、宮崎県警及び第十管区海上保安本部との連携

ア 実施主体

協議会

イ 主な内容

(ア) 農林水産省との連携

農林水産省による会合会場自主警備体制の確保に当たり、会合会場の特徴を踏まえた安全で円滑な運営が図られるよう、地元として助言を行った。

また、農林水産省において、農林水産省、協議会、宮崎県警察、農林水産省業務受託者などが参加する、週1回の定例会(令和4年12月～)を開催し、情報共有及び意見交換を行った。

(イ) 宮崎県警との連携

会合運営及び警備が円滑に行われるよう、会合関係施設の警備体制、移動動線などの情報共有を行うなど、連携体制を強化した。

(ウ) 第十管区海上保安本部との連携

海上・河川警備が円滑に行われるよう、会合情報を共有するなど、連携体制を強化した。

③ 宿泊・輸送

① 宿泊

農林水産省の宿泊関連業務が円滑に進むよう、宿泊施設との連絡調整などの支援を行った。

ア 会合関係者の宿泊施設

(ア) 参加国・国際機関の代表ら

シェラトン・グランデ・オーシャンリゾート

(イ) プレス等の宿泊施設

JR九州ホテル宮崎、アートホテル宮崎スカイタワー

イ 協議会の支援内容

(ア) 宿泊施設との連絡調整(会合関連情報の共有など)

(イ) 宿泊施設からの情報収集

②輸 送

宮崎空港から発着する会合関係者が円滑に乗降できるよう、宮崎空港西口を乗降場所として利用させていただいた。

また、会合関係者の車両が円滑に移動できるよう、一ツ葉有料道路利用に係る調整や大規模イベント開催時期の調整などを行った。

ア 協議会の支援内容

- (ア) 宮崎空港西口の利用に係る宮崎空港ビル(株)との連絡調整
- (イ) 一ツ葉有料道路利用に係る宮崎県道路公社との連絡調整
- (ウ) 会合期間中の大規模イベント開催時期の調整

【参考】農林水産省が運行した車両

参加国・国際機関の代表らが使用した車両

- (ア) 中型セダン又はミニバン
各代表団に1台
- (イ) 随行員用ワゴン(10人乗り)
各代表団に1台

3 会合開催後の活動

(1) G7宮崎農業大臣会合展

ア 実施主体

協議会

イ 期間

令和5年5月19日(金)～21日(日) 午前10時00分～午後4時00分

ウ 場所

イオンモール宮崎 1階 ウエストコート

エ 目的

会合の様子や本県の魅力PR、おもてなしの取り組みを知ってもらうとともに、本県の国際会議開催都市としてのポテンシャルについて発信する。

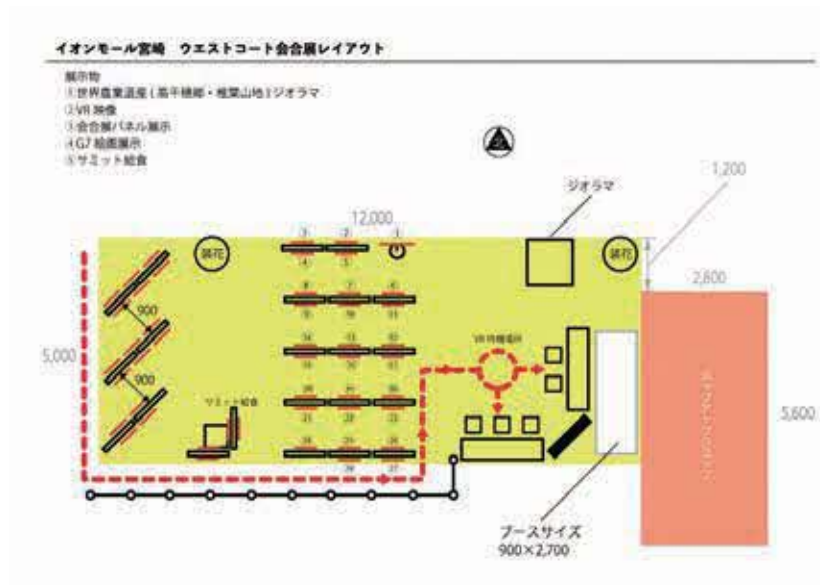
オ 展示内容

- ・世界農業遺産(高千穂郷・椎葉山)VR映像・ジオラマなど子どもから大人まで楽しめる催し
- ・会合期間中の様子、本県の魅力PR、おもてなしの取組等のパネル展示
- ・歓迎セレモニー用の手作り歓迎パネルの展示
- ・絵画・ポスターコンクールの最優秀・優秀作品やサミット給食の展示

カ 来場者数

2,890人

キ 配置



ク 当日の様子



会合展の主旨

4月21日（金）から23日（日）にかけて、G7宮崎農業大臣会合が開催され、皆様のおかげさまでもちまして、無事に閉幕しました。

参加国・国際機関の代表の皆様は、宮崎の農業に関心を寄せられたり、宮崎の食に舌鼓を打ったり、子どもたちやサポーターを含めた関係者の皆様のおもてなしに笑顔を向けられ、終始宮崎を満喫された様子でした。

会合の開催は、生産者をはじめとする農業関係者の日頃の取り組み、県民の皆様のおもてなしと協力なしに実現することはできませんでした。

この会合展では、G7宮崎農業大臣会合の様子やおもてなしの取り組みを紹介するとともに、会合を「共に」創り上げていただいた県民の皆様のお姿を振り返りたいと思います。

G7宮崎農業大臣会合協力推進協議会



参加国・国際機関の代表らによる
フォトセッション

本会合

本会合では「農業の生産性向上と持続可能性の両立」「自国の生産資源を持続可能な形で活用」「あらゆる形のイノベーションによる農業の持続可能性の向上」を中心とした議論が行われました。



農林を踏めた野村農林水産大臣



発言をするロッドリーシダ大臣（イタリア）



発言をするフェノー大臣（フランス）



本会合が行われた会合全体の様子

G7サポーターの活躍

公募や大学からの推薦によって選考されたサポーター（ボランティア）が、会合関係者の歓送迎や会場での通訳業務等を通して、会合の成功に貢献しました。



会合の運営を支えたサポーター



参加国・国際機関代表らの歓迎セレモニー



通訳として県産品の魅力をPR



コーヒープレイクにおける
スイーツや県産品のPR

歓送迎セレモニー（会場）

会場に到着した参加国・国際機関の代表らを温かくお出迎えするとともに、出発する代表らをお見送りしました。



ビゴー大臣（カナダ）と難佐小学校の児童



フェノー大臣（フランス）と吉村小学校の児童



ボイチェホフスキ農業相当欧州委員（EU）に
花束を贈呈する豊岡小学校の児童



ロッドリーシダ大臣（イタリア）を
お出迎えする豊岡小学校の児童

展示したパネルの一部

(2) 農林水産大臣から高校生への感謝状贈呈

「高校生の提言」プロジェクトに参加した高校生たちに野村農林水産大臣から感謝状が贈呈された。

ア 実施日

令和5年6月27日(火)

イ 場 所

農林水産省

ウ 参加者

生徒 3名

引率 2名

